

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

#### 家庭・地域・学校協議会

- ・ 区長会代表 (2名)
- ・ 民生児童委員代表 (1名)
- ・ 青郷公民館長 (1名)
- ・ 育友会役員 (3名)
- ・ 青郷保育所代表 (1名)
- ・ 学校 (3名) 計 11名

#### 地域コーディネーター (2名)

- 青葉山麓研究所 所長
- 青郷公民館 館長

### (2) 協議会の内容

- ①開催回数 (2回)
- ②開催日程 (6月、2月)
- ③協議内容
  - ・ 本校の重点目標と具体的な取組
  - ・ 本校児童の状況
  - ・ 地域ぐるみでの取組
  - ・ 学校評価シート (児童・保護者・教師)の作成と実施
  - ・ 学校評価の結果公表と改善 等

### (3) 協議会における成果と課題

家庭・地域・学校協議会の方々に学校での児童の様子を見ていただいたり意見をいただいたりしたことは、参考になることも多く成果である。学校のことや児童のことをブログや学校だより等で発信しているが、地域へ出かけて学ぶばかりでなく、さらに、児童が地域に出かけて発信する等、つながりを広げたり深めたりしていくことが課題である。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域について学び、地域に愛着をもち、誇りに思う児童を育成するという視点に立ち、学校と地域社会とのネットワークの強化を図り、地域に根ざした開かれた学校づくりを目指す。そこで、地域にある施設等と連携して、自然観察や自然体験の活動や歴史学習を行う。また、講師の方との交流やこれらの活動を通して、地域のよさを知り、ふるさとを愛する気持ちを育てる。

### (2) 活動の実際

#### ①米作り体験 (5年生)

社会科で学習した米作りに挑戦しようと、地域の農家の方を招いて、お米の話や昔と今の米作りの仕方について学んだ後、その方の水田で、苗植えや稲刈りの体験をさせていただいた。水田での田植えと合わせて、学校では、稲の成長を観察するためにバケツ稲を育てた。また、かかし作りについても地域の方から指導していただいた。



#### ②畑作り体験 (ひまわり学級)

特別支援学級では、生活単元学習の柱の1つとして、畑作りを中心に据えて進めてきた。学校ボランティアの方に、協力や指導を仰ぎながら取り組んできた。野菜に応じて、土作り、畝作り、種まき、添え木立てなどを教



(様式3)

わった。収穫した野菜を使って調理し、学校ボランティアの方や先生方、交流学級の児童を招いて、収穫祭で交流することができた。

**(3) 地域コーディネーターの活動概要**

年度当初に、地域コーディネーターをお招きして会議を行い、学校からは、今年度のスクールプランを説明した。地域コーディネーターの方からは、地域の子どもたちに期待することやコーディネーターとしてできること等について話を伺った。その後、情報提供や講師の紹介等、協力していただいている。

**(4) 特に工夫した事項**

- ・学校ボランティアや公民館と協働して、地域に出かけて学ぶ、地域の方から学ぶ機会をできるだけ多く持つことができるように計画している。
- ・ふれあい体験活動は、講師の決定から連絡等までPTA役員と協力して行い、体験活動の準備や片付けは、児童と保護者で行うようにしている。

**(5) 成果と課題**

地域に出かけて学ぶ、地域の方から学ぶ機会を積極的に取り入れてきたことで、今まで知らなかった地域のことや地域のよさを知ることができたことが成果である。これらの学習活動をきっかけにして、さらに地域のことに関心を持ち、児童が主体的に学ぶ学習活動の展開へと広がっていくことが課題である。